

平成27年度 佐賀県立武雄青陵中学校 学校評価計画

1 学校教育目標	2 本年度の重点目標
高い志と未来を切り拓く力を持ち、地域や国際社会の発展に貢献できる、人間性豊かな人材を育成する。	学習指導方法の工夫・改善

重点目標を具体的に評価するための項目や指標を盛り込む

3 目標・評価				
① 授業の改善				
領域	評価項目	評価の観点 (具体的評価項目)	具体的目標	具体的方策
学校運営	○教職員の資質向上	教員の授業力向上	・生徒の高校卒業後の進路目標達成に向け、中高6年間を見通した教科指導力、授業力を向上させる。	・武雄高校との授業研究会を通して、中高6年間を見通した教科指導を実践する。 ・他校の授業を年間1回以上参観し、授業力の向上を図る。 ・授業研究会(含ICT利活用)を年間2回以上実施する。 ・生徒の学力推移を的確に把握し、授業改善に生かす。 ・学力推移調査の成績分析会を各学期に1回以上実施し、授業の改善に生かす。
教育活動	●国語、社会、数学、理科、英語、音楽、美術、保健体育、技術家庭の学力向上	① 学習に目的意識を持たせる「めあて」の提示	毎時、及び、小単元毎に提示する。	学期に1回授業評価を行い、その中で、「めあて」によって学習意欲が持てたかどうかを把握し、改善に生かす。
		② 学習集団を本気にさせる「高レベル課題」の設定	上位層の2割の生徒が本気にならないと10分以内では解けないレベルの課題を出す。	課題を解決の様子と時間を計測し、設定レベルを調整していく。
		③ 全員が学習目標を達成できる「課題解決活動」の設定	個別演習、グループワーク、『学び合い』、ALなどの多様な展開を、学習集団と課題を考慮して設定する。	授業では学習集団の全員が基礎事項を習得する意識を持つことを生徒に求め、教師の準備した解決のための展開に集中させ、良い点をほめ、学習集団を育てていく。
		④ 個別に最大限対応する「学習環境づくり」	五感別、理解別、習熟別等で3段階以上の環境作りを準備する。	学習環境を準備するだけでなく、どのような環境が整い、どう利用するかを生徒にも理解させる指導を行う。
		⑤ 学習目標を達成できたかどうかを自己判定する「振り返り」の設定	毎時、及び、小単元毎に提示する。	振り返る場面を設定し、学習事項の習得への意欲を持たせ、授業外の指導につなぐ。
② 授業外の学習指導の改善				
領域	評価項目	評価の観点 (具体的評価項目)	具体的目標	具体的方策
教育活動	●国語、社会、数学、理科、英語、音楽、美術、保健体育、技術家庭の学力向上	① 授業外に指導する生徒の絞り込み	最上位層、及び、下位層の生徒の絞り込みを、各学期(適時)行う。	成績と高校での実情をもとに、各教科で選び指導する。
		② 最上位層の伸長	最上位層の生徒の学力向上と授業における社会性の向上。	最上位層の生徒に対して、授業中の態度およびリーダーシップの取り方を実態に応じて指導する。
		③ 下位層の伸長	下位層の生徒の授業態度の活性化と学力の向上。	下位層の生徒に対して、学習のつまづきを解決させ、授業中になるべく解決する方法を個別に指導する。
		④ 家庭学習の方法の個別指導	3学期までに、生徒一人一人が自らに適した学習方法を見だし、持ち帰る教材を選択する。	全生徒に、自己にふさわしい学習方法を見いださせるため、持ち帰る学習道具について、学年の発達段階毎に指導していく。
③ 宿題の改善、及び、宿題までを含めた形成的評価の日常化				
領域	評価項目	評価の観点 (具体的評価項目)	具体的目標	具体的方策
教育活動	●国語、社会、数学、理科、英語、音楽、美術、保健体育、技術家庭の学力向上	① 宿題における教師の役割の理解	宿題をやったかどうかをチェックすることではなく、宿題の問題ができるようになったかをチェックする役割を教師として果たしている。	宿題の定着について、宿題と宿題解決手段とに分けて考え、宿題解決手段は生徒ができていないときにチェックし、手段を検討するような教育実践をする。
		② 宿題の内容の向上	全体に出す宿題の質を高くし、量は精選する。	授業における高レベル課題と連動した宿題を精選して生徒に出す。
		③ 最上位層、下位層対応の宿題の工夫	一斉の宿題以外に最上位層への長期的宿題や下位層への宿題解決手段を工夫する。	最上位層に本物の力を磨く長期課題を本人・保護者と相談しながら提案。また、下位層に対して、個別の宿題解決手段を面接等を通じて施す。
		④ 宿題の定着の評価と指導	宿題が定着したかを評価し、定着していない生徒に個別に指導をする。	授業最初の5分評価、授業外での評価など、青陵中ならではの方法を計画し実践する。

④ 本年度の重点目標に含まれない共通評価項目				
領域	評価項目	評価の観点 (具体的評価項目)	具体的目標	具体的方策
教育活動	●教育の質の向上に向けたICT利活用教育の実施	ICT利活用教育の検証	・ICTを活用した授業実践を毎週1回以上行う。 ・武雄高校とのWeb交流を3回以上行う。	・アンケートを実施して授業へのフィードバックを行い、ICTを活用した授業の質の向上を図る。 ・武雄高校とのWeb交流を企画し、実施する。
教育活動	●心の教育	読書活動の推進	・豊かな心と高い志を育成するため、良質な本に数多く触れさせる。 ・図書館の年間貸出総数を8000冊以上にする。	・多数の教員による選書を通して、良質な本を数多く購入するとともに、学校だより等で生徒達に読ませたい本を紹介する。 ・2ヶ月に1回図書館だよりを発行し、図書館にある本を紹介して、生徒が図書館に足を運ぶようにする。 ・朝の読書で学級文庫を活用することによって、貸出冊数の増加を図る。
教育活動	●いじめの問題への対応	思いやりのある生徒の育成	・相手のことを考え、正しい判断や、行動ができるようにする。	・生活アンケートと教育相談を各学期に1回以上実施し、生徒の実態把握に努める。 ・いじめアンケートを月に1回実施し、いじめの未然防止に努める。
教育活動	●健康・体づくり	望ましい生活習慣の確立	・3点(起床、学習開始、就寝)固定を定着させる。 ・朝食摂取率を95%以上にする。	・SDノート等を用いて生徒の生活実態を把握し、教育相談などを利用して適切に指導・助言を行う。 ・朝食の摂取状況について調査し、食育だよりや保健だより等で朝食の大切さについて呼びかけるとともに、保護者への協力を依頼する。

●は共通評価項目、○は独自評価項目